



2012年9月 第10巻第9号

・今月の思想

かく語りき—聖人の言葉

「普通の人には、米袋何袋分も宗教の話をするが、米粒一粒ほども実践しない。知恵のある者はほとんど話をしないが、その全人生が宗教であるのが行動に表れている」

(シュリー・ラーマクリシュナ)

「聖なる言葉をどれほど読もうと、どれほど語ろうと、聖なる言葉に従って行動し続けられないのであれば何の得があるろう」

(主ブッダ)

今月の目次

- ・かく語りき—聖人の言葉
- ・今月の予定
- ・スワミー、2012年8月にフィリピンの協会を訪問
- ・2012年御岳山夏季リトリート
- ・スワミー・メーダサーナンダアンナプルナ農園を訪問
- ・忘れられない物語

10月の予定

・生誕日・

スワミー・アベダーナンダ 10月9日(火)

スワミー・アカンダーナンダ 10月15日(月)

ドゥルガ・プージャ 10月21日(日)

・行事・

東京例会

10月6日(土) 14:00~16:00

場所：東京・インド大使館
03-3262-2391

バガヴァッド・ギーターについての講義(無料)

お問い合わせ：逗子協会

ハタ・ヨーガ・クラス

10月7日(日)、14日(日)、21日(日)、28日(日) 14:30~16:00

場所：逗子協会 新館アネックス

お問い合わせ：逗子協会

サットサンガ 浜松

10月8日（月・祝日）

お問い合わせ：逗子協会

10月の逗子例会はありません

スワミー・メーダサーナンダジーは、10月10日～11月11日の間訪印のため不在です。

ナラ・ナーラーヤナ（ホームレス神様への奉仕活動）

10月26日（金）

現地でのお食事配布等

お問い合わせ：佐藤 090-6544-9304

スワミー、2012年8月にフィリピンの協会を訪問

エンリコ・コロンボ氏寄稿

8月23日～27日、スワミー・メーダサーナンダがフィリピン・ラーマクリシュナ・ヴェーダーンタ協会（the Ramakrishna Vedanta Society of the Philippines）に今年2度目の来訪をされました。



この10年間マハーラージは何度もマ

ニラにお越しくださっているのに、マハーラージのご滞在中は様々な活動が日課として行われるようになりました。早朝には聖句詠唱、輪読、『バガヴァッド・ギーター』の解説を行い、その後瞑想や誘導瞑想を、そして夕方には夕拝、賛歌朗唱、『ラーマクリシュナの福音』の輪読、瞑想を行います。

また、ご滞在中の生活面についても「日常のこと」のように役割分担が確立されました。例えば、数人の女性信者らが率先して、マハーラージのために、そしてセンターの活動・講話への参加者のために、大変おいしくヘルシーな食事を準備します。

しかし一方で、マハーラージの様々なご活動が持つ意味やその重要性は決して「日常のこと」ではなく、参加者は霊性が高まり日常ではなかなか得られない大きなものを得ています。また食事についても、行事の参加者は毎回素晴らしい食事が振る舞われるのを当然のように考えているかもしれませんが、準備をされる方々にとっては、多数の人数分の食事を作ることは「日常のこと」ではなく、多大な努力を必要とするのです。

今回のマハーラージのご訪問には、大切な目的が一つありました。来年世界各国で開催されるスワミー・ヴィヴェーカーナンダ第150回生誕記念祝賀

会をここフィリピンでも行うため、その準備を開始することです。



このプロジェクトのために、マハーラーヂとフィリピンの協会のメンバー数名はインド大使にお目にかかりました。その後協会で、どうすれば祝賀会を最も良いものにできるか、特に、スワミーの教えをフィリピンの人々にどのように伝えるかについてマハーラーヂが説明をされました。そして8月26日、協会の信者・友人の方々が集まって特別ミーティングを行い、祝賀会や協会のその他の活動について討議を行いました。

同日午後、マハーラーヂはマニラ・センターで「神様は実在するか、それとも神話の中の存在か (Is God a Reality or a Myth?)」について講話を行いました。大勢の参加者が熱心に聞き入り、講話の後に質疑応答が行われました。講話を録音するために事前に録音システムを何度も動作確認したのですが、残念なことに当日講話の始まった直後に突然うまく動かなくなり、講話を録音することができず、講話のテキスト

を作成することができなくなりました。



2012年御岳山夏季リトリート 田辺美和子氏寄稿

今年も、恒例のリトリート（霊性の修養会）が7月27日（金）から29日（日）の三日間、御岳山の宿坊 能保利（のぼり）で行われました。



リトリートは日常生活の場では行いません、協会でもしません、なぜなら

リトリートの目的は日常や家族から離れ、静かな場所で内省することだからです。普段の生活や心の状態を振り返り、人生の目的は何かを考え、そのために何をしているか、自己成長のために何が必要か、安定した幸せのためにどう生きていくかを勉強し熟考し智慧とするのです。「内省は人生の車のハンドルである」とマハーラージはおっしゃいました（Introspection is the steering wheel of the car of life.）。人生にはブレーキもアクセルもある。しかしハンドルがない限り、目的地にはたどり着けないのです。

今回の参加者 24 名（うち初参加は 13 名）は到着後、祭壇をととのえ、夕拝と瞑想の時間に向けて、心をととのえていきます。こうして瞑想・礼拝・賛歌・学習・ヨガを中心としたリトリートが、スワーミー・メーダサーナンダ・マハーラージご指導のもと始まりました。



夕拝ではマハーラージの奏するハルモニウムに合わせて神さまを讃える歌を歌い、日本語の賛歌、『ラーマクリシュナの福音』の輪読、そして誘導瞑想

へと続けました。身体と心をリラックスさせ、過去や未来ではなく今に意識を持っていきます。マハーラージの唱えるヴェーダのマントラの波動を感じ、そして聖なるマントラ、オームを皆で何度も唱えました。次に心の中で「すべての人々が幸せで安らかでありますように」と祈りました。気づきはやがて、宇宙に満ちている至高の魂の存在へと向かい、それに集中していくとともに、「至高の魂」とは「永遠で純粋な意識」であること、そして「私」も同じ純粋意識であること、至高の魂と「私」の魂は一体であること、「私」はサッチダーナンダ（絶対の存在、絶対の知識、絶対の至福）であることに瞑想し続けました。やがては「私」すなわち至高の意識は自然や周りのものすべてに広がり、至るところに「永遠」が満ちていることを感じ、瞑想しました。最後に再びオームを唱えました。のちの参加者の感想によると、瞑想が初めて出来た喜びや、瞑想のテーマに神聖なものを選ぶことの重要性を体験した方、瞑想中、今までにないほど深く自分をみつめることが出来た驚きを語った方などおられました。

リトリートでは朝 5 時に起床、5 時 20 分から瞑想、6 時から朝拝、その後、東京ヨガセンターの荒井先生にヨガのレッスンをして頂き、心と身体を整えて一日を始めます。マハーラージに作っていただいた有り難い朝食のあと、「宗

教と無宗教」の講義を聞きました。



2 日目の午後には、「宗教歌についての
実演と講話」が、立教大学教授で宗教音楽がご専門のスティーヴン・モーガン先生によりなされました。近年は大学での講義や指導にとどまらず活動を広げ、合唱団の指揮や作曲も手がけているそうです。故郷のイリノイは様々な種類の教会が自由に存在する気風で、ご家族とともに宗教や宗教音楽に慣れ親しんできたそうです。宗教音楽には三つの分類があるそうですが（①神をほめたたえる②教えを伝える③神に嘆願する）、音楽と宗教の関わりについて、聖地を奪われる前と後のユダヤ教、コンスタンティヌス一世以前と以後のキリスト教、イスラム教、スーフィー教、ヒンドゥ教など、幅広い宗教においてのお話を、実際に音楽を流し、また実演されながらなされて、とても興味深い講話となりました。

数年前から先生は、宗教音楽がどのように宗教的生活にコネクトしているかに興味を持ち、ヴェーダーンタの勉強も始められ、昨年に行われた死者の鎮魂のための奉唱会では、キリス

ト教の祈りの言葉のほか、タゴールの詩、仏教僧の詩、ネイティブ・アメリカンの詩を取り入れたレクリエムを作曲したそうです。質疑応答では、日本にはなぜ宗教歌がないのか等の質問や、宗教歌に参加し頂点を感じたあとに訪れる反動についての注意など、興味深い話が続きました。

あっという間に最後の講義、マハーラージへの質疑応答の時間です。今回は神の化身にまつわる質問が多くみられ、参加者それぞれのリトリートの感想も興味深かったです。朝から晩までのみっちりしたスケジュールのようですが、これを参考に、自分の毎日に瞑想、霊性の勉強、身体のためのヨガやエクササイズ的时间、仕事に集中する時間を計画建ててまっとうすることに挑戦してみてください、自己成長のために変化してください、とマハーラージは愛情をこめて助言下さいました。

こうして初参加の方にも助けられながら素晴らしいリトリートが終了しました。丸一日、24 時間を霊性の勉強に費やすことの貴重さを改めて感じました。そしてマハーラージと寝食を共にする恩恵も強く印象に残りました。タクール、マザー、スワームージーに感謝いたします。メーダサーナンダ師の普遍的な愛情に感謝いたします。準備を整えてくれた方々、当日ご一緒しサポートしてくれた皆さまに感謝いたしま

す。会が終幕に向かうにつれて、皆さまを家族のように感じる度合いが増していきました。マハーラージがおっしゃる「普遍的」とは、他人を家族のように、いえ家族として感じることから始めることも出来るのでは、と感じました。

(編集部にて要約)



スワミー・メーダサーナンダ、アンナプルナ農園を訪問 正木ラビ氏寄稿

2012年8月12日、熊本・アンナプルナ農園にマハーラージをお招きし「ギャーナ・ヨガの思想～内なる智慧の光」をテーマに講話をいただきました。今年、東関東大震災以降九州に移住されてきた方たちを中心に様々な方面から50名くらいが参加しました。

ヴェーダーンタやラーマクリシュナという言葉は初めて聞いたという方たちもいる中、有益な教えをどのようにしてマハーラージからお聞きできるだろうかと、主催者として構成を練るのに時間を要しました。が、会が終わり

その日の印象を話し終わるとマハーラージは私たちの状態が分かったかのように祭壇の前でこう言われました。「今日参加したみなさんは私の所に来ませんでしたよ。あなたの所にも来ませんでしたよ。みなさんはタクールの所に来ました」

この言葉をお聞きした瞬間、有意義な会にしようとして夢中になり責任感という殻を被ったエゴが解き放たれるのを感じました。お話をされたマハーラージが自分の話を聞きにきたのではないと言われるなんて。そんな講演者やアーティストは他に会った事はありません。一瞬で視界が開けたようでした。「私」と「私の」から生まれる無知を智慧の光で洗い流されたような感じでした。

参加者からは、自らの行為がエゴのためなのか神様に奉仕するためなのかどのようにして識別すればよいか、争い・自然破壊・貧困など数々の課題に対して解決策はあるのか、などの質問が挙げられました。

インドの光の種を熊本に蒔きに来てくださったマハーラージ。今、直面している激動の現実への智慧の道しるべとなりました。

(編集部にて要約)

忘れられない物語

クーパー・マンドゥーカ——井の中の蛙

これは、井戸の中に住むカエルの話で、有名な昔話です。いくつかバリエーションもありますが、以下に掲載したのは、スワームー・ヴィヴェーカーナンダが1893年9月15日にシカゴの万国宗教会議で行ったスピーチの一つとして、世界に向けて語られたものです。

* * *

昔、深い井戸の中に一匹のカエルが住んでいた。カエルは長い間そこに住んでいた。そこで生まれ育ったカエルだった。毎日、井戸水の中に住んでいるミミズや菌を食べ、力強く丸々と太っていた。

ある日、海に住んでいたカエルが通りかかり、井戸の中に飛び込んできた。井戸のカエルは海のカエルに言った。

「君はどこから来たの？」

「海からだよ」と海のカエルは答えた。

「海だって！」井戸のカエルは叫んだ。

「海ってどのくらい大きいんだ？僕の井戸ぐらい？」井戸のカエルはこう言うと、井戸の端から端まで一飛びした。

「君ね、こんな小さい井戸と海をどうやって比べるんだ」と海のカエルは言った。

井戸のカエルはまた一飛びすると言った。「君の海ってそんなに大きいのか？」

海のカエルは驚き、大声で言った。「何てバカなことを言うんだ。海と君のちっぽけな井戸を比べるなんて！」

井戸のカエルは言った。「おい、いいかい。僕の井戸より大きいものなんてないんだ。ここより大きいなんてあり得ない」井戸のカエルは怒り出して叫んだ。「こいつは嘘つきだ、追い出せ！」

* * *

スワームー・ヴィヴェーカーナンダはこの話を例えにして、この世界の人々が互いに平和に暮らせない理由を説明したのです。人間が解決できない問題とはこのような些細な違いに過ぎず、ここから憎しみや不和が生まれるのです。

(www.balagokulam.org より)

今月の思想

「私たちは繰り返し行う行為の産物である。

故に、秀でていたとは一つの行為でなく、習慣である」

(アリストテレス)

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp